

2024 年度

【査読付き論文】

1. 呂隆徳, 及川欧, 高橋佑弥. COVID-19 専従理学療法士におけるメンタルヘルスケア—心拍変動測定器およびアンケートを用いて—, バイオフィードバック研究 51 巻第 1 号 p11-18. 2024 年
2. Norihiko Muraoka, Takanori Ro, Tetsuo Ota. Relationship between physical function and quality of life based on treatment timing in patients with advanced lung cancer. J. Phys. Ther. Sci. Vol. 37, No. 1, 2025
3. 高橋佑弥. Rhythmical skeletal muscle tension (RSMT) 変法の検討 —ベーチェット病により上肢機能障害を呈した事例—, バイオフィードバック研究 2024; 51: 1: 3-10
4. 岡村綾子, 呂隆徳, 村岡法彦, 伊東修一, 島田空知, 岡秀治, 中右弘一, 遠藤寿子, 大田哲生. 発達に遅れを呈する特発性拡張型心筋症の乳児に対する理学療法. 小児理学療法学 Vol.3 2024 年
5. 青木沙優, 村岡法彦, 呂隆徳, 高山拓也, 大田哲生. 多職種連携により右上肢痛と健康関連 QOL が改善できた Pancoast 症候群を呈する右上葉肺癌の一症例. 北海道理学療法第 41 巻 p48-56. 2024 年

【講演】

1. 呂隆徳. 鶴居村糖尿病予防講演会「運動したほうがいい理由は何ですか？」2024 年 10 月 18 日. 北海道鶴居村
2. 呂隆徳. ロコモ予防と健康づくり実行委員会「ロコモティブシンドロームってなに？—健康寿命を延ばすには—」2024 年 10 月 5 日. 旭川市
3. 呂隆徳. 回復期リハビリテーション病棟協会 第 45 回 研究大会. 特別企画 1「みんなで FIM にチャレンジ」2025 年 2 月 22 日. 札幌市
4. 村岡法彦. 旭川地区訪問リハビリテーション連絡会研修会「旭川地域のがんのリハビリテーションの現状から病院在宅間の連携を考える」2024 年 12 月 9 日. 旭川市
5. 塚田鉄平. 北海道障がい者スポーツ協会初級パラスポーツ指導員養成講習会. 「各種障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫」2024 年 11 月 9 日. 札幌市
6. 塚田鉄平. 北海道理学療法士会. 北海道理学療法士学術大会 職能局取り組みの発表「パラスポーツの輪を拡げて～障がい者スポーツ支援部の取り組み～」2024 年 12 月 1 日. 苫小牧市
7. 塚田鉄平. 十勝支部理学療法士会. 十勝支部理学療法士学術大会 基調講演「パラス

- スポーツへのPTとしての関わり」2025年1月25日、帯広市
8. 塚田鉄平. 道北支部理学療法士会. 講習会「市民アスリートに対しての理学療法評価と運動指導」. 2025年3月5日. 旭川市
 9. 塚田鉄平. 道北地区パラスポーツ指導者協議会. 初級パラスポーツ指導員養成講習会. 「各種障がい者のスポーツ指導上の留意点と工夫」. 2025年3月22日. 旭川市
 10. 伊東修一. 第3回医工連携ワークショップ「スキーシミュレーターを用いた滑走動作の筋電図学的検討」2025年1月27日. 旭川市
 11. 伊東修一. 道北支部学術部臨床研究支援ミニレクチャー「文献検索の実践」2024年7月23日. オンライン
 12. 伊東修一. 豊岡中央病院勉強会「急性期リハビリテーションの安全管理」2024年12月12日. 旭川市
 13. 高橋佑弥. SIG ワークショップ「明日から実践できる運転支援～事例検討会～」. 北海道の自動車運転と移動手段を考える会,北海道作業療法学会学術大会 2024年6月22-23日. 千歳市
 14. 高橋佑弥. 「認知症予防と運動」. 旭川市社会福祉協議会. 2024年9月29日, 10月26日. 第二地区・ふれあい地区, 旭川市
 15. 佐藤弘也. 道北地区パラスポーツ協議会研修会「カナダにおける地域のパラスポーツの取り組みと連携」 2024年7月7日. 旭川市
 16. 佐藤弘也. 第51回日本バイオフィードバック学会学術総会 国際交流委員会自主企画シンポジウム「自然災害から我々は何を学ぶことができるか?～多職種協働アプローチの有効性～」シンポジスト. 2024年6月. オンライン
 17. 佐藤弘也. 第1回アニマルセラピー体験会 in 東川「リハビリテーション、ここまで出来る?!」. 2024年9月16日. 東川町.
 18. 佐藤弘也. SIT-FIT Live Vol. 24「～「カナダモデル」を徹底解剖～カナダ流パラアスリート成功の法則」. 2025年2月19日. オンライン
 19. 高山拓也. 地域がん診療連携拠点病院研修会「がん・廃用症候群・認知症の予防に効果がある身体活動」2025年2月21日. 士別市
 20. 村田絵吏. 2024 がん運動全国キャラバン「がん運動」2024年5月26日. 東川町
 21. 細谷奈々望. 第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会ランチョンセミナー12. ALI 一刻を争う急性下肢虚血～正しく患者様を見つける、診る、治す～ALI に対するリハビリテーション. 2024年11月30日. 神戸市
 22. 才田良幸. 令和6年度第3回肝臓病教室「肝機能低下による運動機能への影響」. 2025年2月6日. 旭川市
 23. 才田良幸. 道北地区パラスポーツ指導者協議会. 初級パラスポーツ指導員養成講習会. 「パラスポーツのリスク管理」. 2025年3月17日. オンライン

【学会発表】

1. 呂隆徳, 高橋佑弥, 及川欧. 心拍変動を用いた自律神経系評価の取り組み. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会. 2024 年 11 月 9 日. 仙台市
2. 村岡法彦, 甲谷滉康, 呂隆徳, 木下学, 大田哲生. 高齢膠芽腫患者の退院時歩行自立度と全生存期間との関連. 第 2 回脳腫瘍支持療法研究会学術集会. 2024 年 9 月 20 日. 東京都
3. 伊東修一, 西谷健太郎, 呂隆徳, 市川花, 三田村信雄, 紙谷寛之, 大田哲生. 心臓血管外科手術患者における術前の Phase Angle は術後合併症発症率に影響する. 第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会. 仙台市
4. 伊東修一, 伊達歩, 呂隆徳, 市川花, 大田哲生. 心臓血管外科手術患者のフレイル有症率の検討. 第 17 回リハビリテーション機能評価研究会. 兵庫県
5. 伊東修一, 伊達歩, 呂隆徳, 市川花, 大田哲生. 心臓血管外科手術患者の 1 年後のフレイル有症率の検討. 第 9 回日本心臓リハビリテーション学会北海道支部地方会. 札幌市
6. 高橋佑弥. 旭川の自動車運転を考える会の取り組みについて. 第 15 回旭川脳卒中地域連携研究会 2024 年 11 月 11 日. 旭川市
7. 高橋佑弥. 旭川の自動車運転を考える会の取り組みについて. 第 68 回北海道リハビリテーション学会学術集会. 2024 年 8 月 3 日. 札幌市
8. Tanaka A, Ito S, Ro T, Mitsutake R, Tanino H, Ito H, Ota T. Factors that can affect wearing socks activity in patient of two weeks after Total Hip Arthroplasty. 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024 in Sapporo
9. 田中団, 高橋佑弥, 呂隆徳, 大田哲生. 関節リウマチ治療におけるリハビリテーションの期待される働きと役割について. 旭川リウマチ研究会 2024. 旭川市
10. 佐藤聖, 林圭輔, 呂隆徳, 岡村綾子, 遠藤寿子, 大田哲生. 乳児期に気管切開された患児の言語聴覚療法に透明マスクを使用し奏効した一例. 第 46 回国立大学リハビリテーション療法士学術大会. 2024 年 7 月 6 日. 弘前市
11. 高山拓也, 呂隆徳, 村岡法彦, 大谷将秀, 横尾英樹, 大田哲生. 胃がん患者術後 1 年の身体機能および QOL にサルコペニアが与える影響. 第 11 回日本予防理学療法学会学術大会. 2024 年 11 月 9 日. 仙台
12. 岡村綾子, 伊東修一, 田中伸吾, 細谷菜々望, 青木沙優, 甲谷滉康, 村田絵吏, 呂隆徳, 林恵充, 大田哲生. 左大腿平滑筋肉腫に対し膝関節伸展筋群を広範切除した症例の三次元歩行解析. 第 69 回北海道リハビリテーション学会学術集会. 2024 年 7 月 19 日. 札幌市
13. 岡村綾子, 村岡法彦, 呂隆徳, 更科岳大, 本村勅子, 大田哲生. 運動会参加が可能となった急性リンパ性白血病再発により造血幹細胞移植を受けた児の一症例. 北海道小児血液・がん研究会. 2024 年 10 月 26 日. 札幌市

14. 三田村信雄, 呂隆徳, 伊達歩, 大田哲生, TAVI 術前の安静時間は術後 1 か月の身体機能・QOL およびその改善と相関する. 第 8 回日本循環器理学療法学会. 2024 年 11 月 23 日. 仙台市
15. 三田村信雄, 及川欧, 大田哲生, 石川県能登半島地震 DMAT 活動～業務調整員・理学療法士として～. 第 49 回リハビリテーション医学会北海道地方会. 2024 年 4 月 20 日. 旭川市
16. 八木橋史佳, 高橋佑弥, 呂隆徳, 林圭輔, 木下学, 大田哲生. 当院の覚醒下手術における術中の取り組み－左側頭葉に星細胞腫を呈した 1 症例－. 第 68 回 北海道リハビリテーション学会学術集会. 2024 年 8 月 3 日. 札幌市
17. 西谷健太郎, 伊東修一, 呂隆徳, 市川花, 大田哲生, 紙谷寛之. 心臓血管手術患者の術前の椅子立ち上がりテストは術後合併症の有無を予測する. 第 8 回日本循環器理学療法学会学術集会. 2024 年 11 月 23 日. 仙台市
18. 美馬愛子, 高山拓也, 村岡法彦, 細川祐司, 甲谷滉康, 吉田雄太, 橋本直宏, 呂隆徳, 大田哲生. 急性期脳卒中患者に対して長下肢装具を使用した即時的な効果－座圧計を用いた効果検証－. 第 15 回旭川地域脳卒中地域連携研究会. 2024 年 11 月 11 日. 旭川市
19. 甲谷滉康, 村岡法彦, 呂隆徳, 木下学, 及川欧, 大田哲生. 体幹トレーニングによって ADL が改善した悪性リンパ腫による両麻痺患者の一症例. 第 2 回脳腫瘍支持療法研究会. 東京都
20. 吉田雄太, 村岡法彦, 呂隆徳, 大田哲生. 当院における医療安全の取り組み. 第 7 回道北理学療法士学術大会. 2025 年 1 月 26 日. 旭川市
21. 市川花, 伊達歩, 三田村信雄, 呂隆徳, 大田哲生. 末期心不全患者の終末期ケアに対する他職種介入－心リハに携わる理学療法士としての関わりを考える－. 第 9 回心臓リハビリテーション学会北海道地方会. 2024 年 11 月 16 日. 札幌市
22. 市川花, 伊東修一, 呂隆徳, 西谷健太郎, 三田村信雄, 石田健一, 紙谷寛之, 大田哲生. 心臓血管外科手術待機期間中に活動量が減少している患者はフレイルの有症率が高い. 第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会. 2024 年 11 月 24 日. 仙台市